循環器疾患を抱える患者の透析予防の院内展開の取り組みとその成果

千葉県循環器病センター

看護局　湯浅めぐみ　西原晴美

はじめに

循環器疾患を抱える患者の多くは、心不全の危険因子となる高血圧、糖尿病等を合併していることが多い。

外来診療にあたり、糖尿病悪化傾向の循環器疾患患者が多くみられた。

心不全ステージB・Cの患者に対して、心不全発症・再発予防へ向けて糖尿病管理への介入支援が必要ではないかと感じた。

はじめに

また、院内の経営改善へ向け、循環器外来で行える内容を検討し、糖尿病透析予防指導に対して介入ができるのではないかと考えた。

循環器医師に協力を得て、糖尿病看護認定看護師及び糖尿病療養指導士と連携をはかり、介入を開始した。

目　的

循環器疾患を抱える患者への透析予防の
院内展開の取り組みとその成果を報告する。

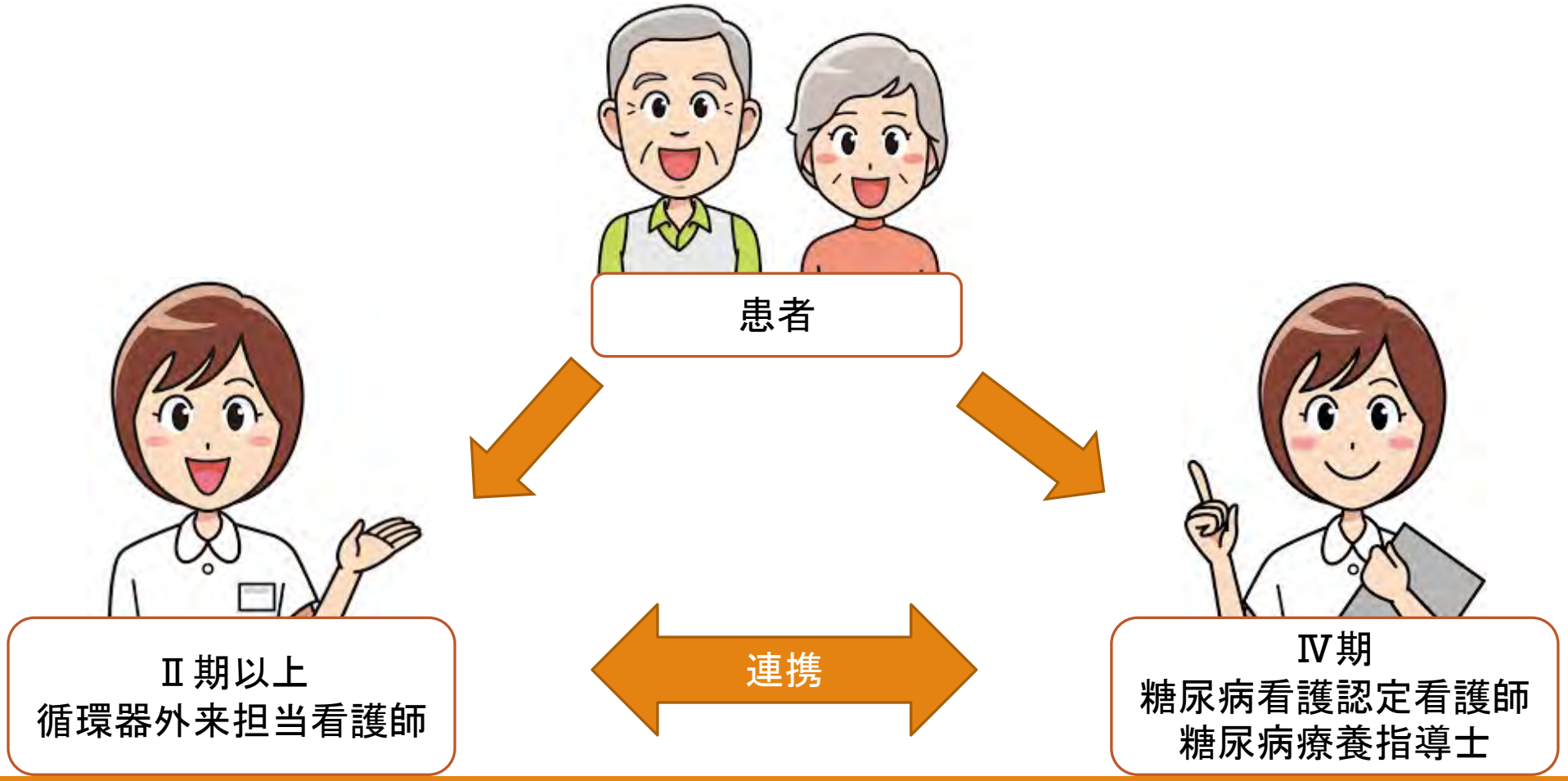
方法

実施期間：2020年9月～2021年12月まで

HbA1c悪化傾向患者を抽出、腎機能データ推移を確認し、糖尿病性腎症評価として、尿中Alb/Cre評価の実施を循環器医師へ依頼

尿中Alb/Cre、腎機能結果から糖尿病性腎症評価し、糖尿病透析予防指導実施し、指導後の効果を評価する。

介入方法



結　果

腎症評価実施件数：25件

年齢：平均68.6歳（男性：±68.6歳　女性：±70歳）

性別　男性：21名　女性：4名

心不全進展ステージB　17名　　ステージC　　8名

糖尿病透析予防件数：10件

（内訳　糖尿病性腎症　Ⅱ期：1件・Ⅲ期：7件・Ⅳ期：2件）

結　果

患者	性別	年齢	尿Alb/Cre					eGFR			HbA1ｃ					食塩推定量		
			1回目	2回目	改善率	3回目	改善率	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	改善率	3回目	改善率	1回目	2回目	3回目
A	男	67歳	550.8	351.3	-199.3	935.2	583.7	42	51	48.9	8	7	-1	7.9	0.9			11.2
B	男	75歳	5398.6	4254.7	-1143.9	4941.3	686.6	59.7	50.6	44.4	7.9	7.8	-0.1	7.2	-0.6		12.1	10.5
C	男	74歳	137.8	9	-128.8	179	170	56.6	54.8	53.4	7.5	6.5	-1	6.9	0.4			
D	男	72歳	33.6	8.2	-25.4	3.3	-4.9	42.5	27.8	26.5	6.6	6.5	-0.1	6.5	0	10.6	8.3	7.7
E	男	74歳	665.2	326.6	-338.6			14.3	13.3		6.2	6	-0.2				10.6	
F	男	76歳	39.8	26.5	-13.3	95.1	68.6	35.5	33.7	32.4	7.5	6.6	-0.9	7.6	1			13.4
G	男	48歳	215.2	184.9	-30.3	137.1	-47.8	81.4	78.8	80.9	6.8	7.4	0.6	6.9	-0.5	16.3	18.1	14.2
H	女	58歳	327.8	397.7	69.9			28	24.2		6.1	7.8	1.7				9.8	
I	男	60歳	68.7			131.4	4.8	55.3	68.4	55.6	6.8	6.8	0	6.2	-0.6		12.6	14.8
J	男	77歳	46.2	24.4	-21.8	22.4	-2	34.5	34.8	54	7.7	7.5	-0.2	7.4	-0.1	10.3	11.7	11.6

一事例より

B氏　70歳台　男性

既往：狭心症　冠動脈バイパス術後　心不全（心不全ステージC）　高血圧

職業：無職（元中華料理屋経営）

家族背景：妻と2人くらし。妻はアルツハイマー型認知症で、徘徊あり、目が離せない状況。患者自身が世話をしている。近くに娘がいて、病院受診時は、娘が泊まりにきてくれる。

事例の検査データ

心機能：EF30％　HFrEF

《初回データ》

尿中Alb/Cre：5398.6　HbA1c：7.9％　　eGFR：59.7

BUN：21.4mg/ml　尿蛋白：2+　　BNP：103.2

体重：50.8kg

腎症Ⅲbと評価

介入支援

《初回介入》
腎症Ⅲb
腎機能データから、
脱水傾向あり

水分摂取が少ない
↓
水分摂取を促す
体重：50.8kg

《2回目介入》
HbA1c6.8%（-1.0）改善
BNP　255.3个　体重：
55.4kg（+4.6kg）
口渇もあり、1日2000ml/
日摂取していた。
↓
水分摂取制限：1000ml/
日（食事以外）とする
体重評価を毎日実施する
ように説明

《3回目介入》
HbA1c7.0%
BNP89.6↓
体重：56.3kg
（+0.9kg）
目標体重：55～
56kg範囲に設定
水分1000ml/日
で守れている。

家族背景から、認知症の妻を抱えての生活の中でのセルフケアとなるため、思いの傾聴とセルフケア状況を確認し、本人のできることを一緒に検討して実践してもらうことした

考察

糖尿病性腎症評価をしていくことで、患者にとって虚血性心疾患や心不全、糖尿病合併症予防へ向けての自己管理の指標となり、介入を実施していくことで、データ改善へ繋げることができた。

慢性疾患を抱える患者は、継続した自己管理が必要であり、実践していることがデータ改善として目に見えることで、患者の自己効力感へつながると思われる。

患者への関わり方は、糖尿病管理や循環器疾患管理として同じことが言える。

考　察

循環器疾患を抱える患者は、腎硬化症による腎機能低下を招いている患者が多いことがわかった。

長年の高血圧の影響や循環器血流量の低下に伴い、心腎連関が関与していると思われる。また、利尿剤の服用により腎機能への影響も考えられる。

循環器疾患患者への塩分制限や脱水予防への支援が必要である。

考　察

糖尿病治療としてSGLT2阻害剤を服用により、尿糖を排出することで水分摂取が必要である。

心機能低下している患者に対して、水分過多により心不全再発してしまう可能性がある。

水分制限のある場合、どのように摂取を促していくかがｶｷﾞとなる。

水分摂取に対しては、循環器医師に水分摂取量の範囲を確認しながら、糖尿病を抱える循環器疾患患者支援の特徴と考える。

結論

1. 糖尿病を抱える循環器疾患患者の支援として、透析予防指導を実施し
糖尿病専門チームと連携を図りながら、糖尿病管理をしていくことで心不全発症、
再発予防につなげることができる。

2. SGLT2阻害剤服用の患者に対しては、水分制限の有無を確認し、水分過多や
脱水にならないように、データを確認しながら、循環器医師と連携をとることが
循環器疾患を抱える糖尿病管理が特徴である。

おわりに

今回、介入できた患者は一部であり、当院は複数の循環器外来があり、糖尿病悪化傾向の患者を複数の循環器外来診療でどのように関わっていくかが今後の課題となる。

循環器医師の協力のもと、外来診療に携わる外来看護師、糖尿病看護認定看護師、糖尿病療養指導士とともに糖尿病を抱える循環器疾患患者の支援を行い、心不全の発症、再発予防につなげていきたい。